

節目の年 復興に弾みを

三宅村村長 櫻田昭正



三宅島新報の読者の皆様、明けましておめでとうございます。

早いもので、今年は4年5カ月に及ぶ全島避難から帰島して10年目という節目の年となります。この間、三宅島新報の発行に携わられてきた皆様に敬意を表しますと共に、皆様から噴火以来

賜った様々なご支援に対し、心より感謝を申し上げます。

さて、昨年は人口透析の導入、多目的施設の建設開始などこれまでの懸案が大きく前進した年でした。また、老朽化した火葬場の改築と役場庁舎に関する検討も開始することができました。しかし、まだまだ課題は残っており、今後の村議会と村民の皆様と共に更なる復興に向けて、弛まらず、焦らずに歩を進めて

いく所存です。少なくなくなったとはいえ、火山ガスの放出が続き、沖ヶ平地区では未だ準居住区としての規制が残る中ではありますが、三宅村では今年2月から1年間を、帰島10周年を記念する1年と位置付けて、復興の更なる弾みとなるような事業を計画していきたいと考えておりますので、引き続き皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、今年1年が皆様、そして三宅島にとってより素晴らしい年になりますように祈念申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年おめでとうございます。

三宅島も帰島10年、2000年噴火から15年を迎えました。この間、皆様に支えられ例を見ない長期自然災害に立ち向かってきました。今日があるのは、善意とボランティア精神にあふれた皆様にお会いできたからだ実感しております。

「禍を転じて福となす」のごとくご支援を頂き三宅島が忘れ去られることなく全国発信を続けて観光、産業復興などの一助



ふるさと再生と在京者支援の努力今年も

ふるさとネット会長 佐藤就之

になること。さらに生活再建、ふるさと再生と在京者のご健勝を祈念し努力を重ねていきたいと思っております。なにとぞ本年も倍旧のご助力をお願い申し上げます。

島民は今ふるさとへのよさを実感しております。高齢者も身体が動く限り野菜作りに励み、元高濃度地区住民は、跡地を見に長い道を村営住宅から歩くことで元気を保っていると伺いました。

在京者の皆様も持病や生活苦を克服しながら「望郷の念」を懐きつつ頑張っている便りも頂いております。

本年も皆様が多幸でありますようにご祈念申し上げます。

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○第40回世話人会（総会準備）開催
3月16日（土）
18：30～20：30
喫茶室ルノアール 巣鴨駅前店にて世話人会を行います。

○2015年度 三宅島ふるさと再生ネットワーク総会
4月11日（土）
18：00～20：00
喫茶室ルノアール 巣鴨駅前店にて開催いたします。

【三宅島ふるさとネット事務局】
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：栗原

おきみくらで「支援者の集い」 佐藤会長「島から長期災害対策を」

ふるさとネットの「支援者の集い」が、12月13日に青物横丁の「ビストロ おきみくら」で開催された。佐藤会長の「長期災害への対応を三宅から発信しよう」という挨拶で始まった集いには22人の支援者が参加。特別友情出演の鶴吉さんによる日本舞踊も披露され、参加者は楽しい時間を過ごした。

「集い」は、佐藤就之会長の挨拶で始まった。会長は挨拶の中で「忘れられた被災地の現状をどう打開するかが鍵。長期災害を考えるため三宅の実態を全国に発信していきたい」と今後の活動の方針を話し、出席者から大きな拍手を送られた。さらに、本紙を編集する

るDTPA顧問で向上高校長の山田貴久先生の挨拶に続き、女優で神戸出身の京町（みやこ）さんが乾杯に先立ち、阪神淡路大震災発生後被災者の支援を行い、三宅島にも足を運んで高齢者等の支援を行った阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長の黒田裕子さんが8月に

亡くなったことにふれ、その功績をたたえるとともに冥福を祈るス



踊りで会場を盛り上げた鶴吉さん



参加者に挨拶をする佐藤会長



黒田さんの思い出を語る京町さん

その後、22人の参加者はい料理を食べながら親睦を深めるとともに、一人ひとりが、三宅の復興とふるさとネットへのそれぞれの思いを話した。

鶴吉さん 華やかな踊り

「支援者の集い」では、舞踊家の鶴吉さんが華やかな踊りを披露し、参加者を魅了した。

最初は、「お座敷おきみくら」と題して、お座敷芸の「さのさ」、「梅は咲いた」の2曲を続けて踊った。

続いては、趣向を変えて「黒田節」を披露。モデルとなった黒田官兵衛の家臣、母里太兵衛は酒が強く、また名手といわ

れるほど槍もうまかったといわれるが、その様子を扇を使って力強く表現。参加者からは「鶴吉！」の掛け声が飛んだ。締めは全島避難をしていた2003年に五木ひろしさんが歌った「望郷の詩」で、鶴吉さん自身が振付けをした踊りを、遠く三宅島を思い出すように踊った。

その後も会食と懇談は続き、最後は酒井一豊副会長の三本締めで、今年一年を締めくくった。

絆深める新報づくりを

DTPA顧問 山田貴久



「支援者の集い」に参加させていただき、旧知の方々と久しぶりに顔を合わせました。ここでおいする皆さんは、私

やDTPAで活動する向上高校の卒業生の生き方にも影響を与えるような大切なものをたくさんいただきました。今年も皆さんとお会いできたことを嬉しく思っています。噴火や地震等の自然災害は、どうしても時間とともに風化してしまいきます。また、時間が経つにつれ、被災者それぞれの復興スピードに差が生じるため、人間関係が希薄になっていくのが常です。東日本大震災の被災地でもこのような傾向が顕著になる中、三宅島に關しては、佐藤会長が避難指示解除を前に、島民同士や島民と支援者を結びつけることを目的に「三宅島ふるさと再生ネットワーク」を設立したのは、正に「先見の明」であったことが再確認できます。

このような絆を更に深めることができるように、今後もDTPAのメンバーとともに、「三宅島新報」の編集を頑張っていく予定です。

寄せられたメッセージ

「これから三宅の力に」

12月13日に行われた「支援者の集い」の出欠葉書きのメッセージ欄には、被災からこれまでに支援の手を差し伸べてくださった心温まる言葉が書かれていた。このような言葉は、今後未曾有の長期災害に見舞われた三宅島民の支えになるものだ。

光安千久子様（副会長）

謹んで新年のお祝いを申し上げます。27年は、帰島10年の節目の年です。皆様方には大変お世話になりました。まだまだ息抜きの出来ない三宅島ですので今後とも支援の程よろしくお願い致します。在京者の皆様もお身体に気を付けてお過

酒井一豊様（副会長）

全島避難から15年島民の皆様も頑張ってきました。私達、在京者もこれから皆様とともに頑張つて生きたいと思つていきます。お身体を大切に！松尾駿一様（元三宅高校校長）

今年は、残念ながら三



「支援者の集い」の最後には出席者全員で記念撮影を



「集い」でおいしい料理を提供してくださったおきみくらのみなさん

山田貴久様（向上高校校長）
新報の編集、不十分なところも多いと思いますが、少しでも皆様のお力になればと考えております。これからもよろしくお願いたします。

宅島を訪れることができませんでした。退職してから11年目になりますが、島の緑や海のこと、学校のこと、報道される度にますます発展するように願っています。



「集い」では参加者全員がスピーチを行った

山尾啓予様（DTPA・三宅島新報編集員）

今後とも新報を通じて、お手伝いさせていただきます。三宅島がもつともつといきいきしますよう願っています。

高橋民夫様（文化放送キヤスター）

帰島実現から10年という節目の年を迎えました。数々の苦勞を乗り越えてこられた皆さまに敬意を表します。お互いに声をかけあい、笑顔に満ちた年が送られますよう、お祈りいたします。自然に恵まれた三宅島が平和でありますように。

山崎登様（NHK解説委員）

広島島の土砂災害や御嶽山の噴火など、今年は大きな災害が多くなりました。改めて、防災意識を高めることの大切さをお話ししました。（追伸…12月13日の土曜日に予定されている「三宅島支援者の集い」のご案内をいただき、出席させていただくつもりで返事をさせていただきました。その後、衆議院が解散になり、昨日選挙が公示されて投票日が14日に行われることになりました。このため、前日の夜の「三宅島支援者の集い」に出席することが難しくなりました。申し訳ありませんが、今回は欠席させていただきます。またの機会に参加させていただきます。佐藤さん、みなさんによろしくお伝えください。）

中嶋義雄様（公明党都議会幹事長）

都政の立場から、今後とも三宅島の振興に努力をして参ります。皆様のご健勝をお祈りいたします。

『支援者の集い』に寄せられたメッセージ(3面より続く)

齋藤實様(元三宅支庁総務課長・危機管理勉強会塾長)

帰島10周年。三宅島ふるさとネットワークの益々のご発展を祈念申し上げます。微力ながらネットワークを支えてまいります。よろしくお願い申し上げます。

増田奈穂子様(元ネット事務局長)

佐藤会長はじめ、事務局、DTPA、ボランティアの皆様、いつもありがとうございます。長男が1歳4ヶ月になり、親子共々、元気に過ごしています。ネットの活動になかなか参加できず、申し訳なく思いますが、また機会をみつけて皆様とお会いたいと思っています。本年もよろしくお願ひします。

坂本健様

昨年9月、日本応用心理学会の公開シンポに参加しました。そこで佐藤会長の三宅島の復興・生活の再建への強い思いを、直接、聞くことが出

来ました。声をかけていただいて、ありがとうございます。

井上教子様(労務協会専務) 噴火災害を風化させないためにも、これからも頑張ってください。三宅島の完全復興を心よりお祈り申し上げます。

柚木裕子様

新年おめでとうございます。三宅島の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。また、ふるさと再生ネットワークの皆様の日頃の活動に感謝

し、更なるご活躍を祈念しております。

馬場裕子様(前都議会議員)

ご案内ありがとうございます。私事ですが、先日家族の死と長期入院が重なっており、介助の日々となっております。状況が落ち着くまで、しばらくかかりそうです。皆様もお身体を大切に頑張ってくださいますよう心から祈っております。以上激励にはなりませんので、近況報告としてお受けください。

古館秀也様

申しわけありません。

「あしたば音頭」CD贈呈

お申し込みはお早めに



神着老人クラブ佐藤就之会長は、三谷さん作の「あしたば音頭」をCDにして希望者に贈呈。ただし、数量限定、申し込み順。申し込みは光安まで 080(1192) 5459

【お便り】(要約)

さて、この度はお心のこもった古里の新鮮な大好物を沢山お贈り頂き夢ではなかろうかと吃驚仰天致しました。余命幾許もない私共にまで気配り下され厚く御礼申し上げます。

全島避難以来一度も帰島しないものですから懐かしい土の温もりや香りが家中に包み以前畑仕事に夢中になった頃を思い出しながら賞味させていただきました。お話によれば、私が現在元気に帰島したならば神着地区の男性だけなら高齢者の一、二を争うことが出来るじゃないかと聞かれ、これまた仰天しました。

(*Hさんお手紙ありがとうございます。何時までもお元気で)

【ご寄付者名】(10月17日~12月1日)

笹井廣知様、坂本健様、光安千久子様(島市売上)

黒田さんを偲んで

前号4面でお知らせした阪神高齢者・障害者支援ネットの黒田さんの偲ぶ会は、12月21日、コープこうべ生活センターで行う。ふるさとネットを代表して佐藤会長、栗原事務局長と山田向上高校校長、京町さんなどが参加する。

見守り活動の手引き②

「他職種との連携について」(さすが黒田裕子さん、元副総婦長だけあって実態に即している。高齢者の必要としているケアを網羅。三宅島でも再考を)

・行政復興支援課・保健部・生活保護担当課・警察署 消防署・自治会・社協 民生委員・医師・ボランティアナース・ケアマネジャー・ヘルパー・老人ホームなど・保健師・地域のボランティアの活用

が、年末の選挙で今の政権に少しでもダメージを。マスコミが本場の事を報道しなくなった。まともなのは、東京新聞だけ。す。(東京新聞の本音のコラムが楽しい)

吉田信行様(世話人)

いつもご連絡有難うございます。当日は、生憎大阪へ出張のため参加す

助川俊夫様(元教師)

新しい年を迎えることで、三宅島の再生・復興が、さらにまた一歩前進できるような協力していきたいと思っています。手元に

編集後記

今号には、昨年行われた「支援者の集い」の様子と、皆さんからのメッセージを掲載しました。今年も三宅島から10年の節目の年となります。支援者の集いで佐藤会長が語ったように、長期災害への対策を考えるために三宅島の現状を全国に発信することは重要で、その一助になれるよう、私たちも頑張っています。

(DTPA一同)